

ふるさとと奥尻通信

平成30年3月31日
奥尻町教育委員会発行
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭言

明治の代となり、中央では「文明開化」なる言葉も出来たが、他方、当時の奥尻島はまだまだ「北海の孤島」であった。それでも次第に官庁（開拓使）の手が及び始めていた。

特集 奥尻島探検記 その①

明治11年(1878)に開拓使五等属(1)山田守峻が奥尻島を探検した報告文が残っています。島が本格的に開発される前の様子を知ることができる貴重な報告ですので、要約して紹介します。

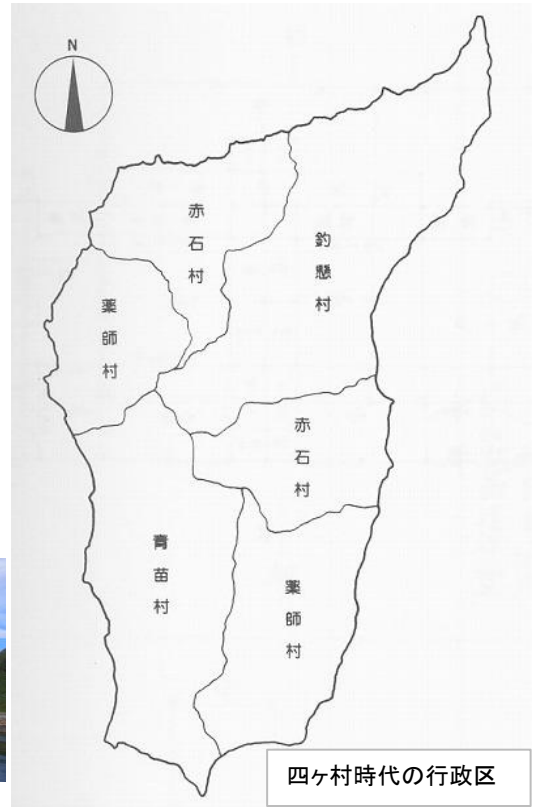
「奥尻島探検の命令を受けて、幸運にも江差から通運船の便があったので載せてもらって渡航することができた。海上から島を望むと、南北に広がり三角形である。一番高い山を神脇山(2)という。その右に勝間山(3)。ようやく海岸に達する。この時6月16日で、天気は晴れて、風はない。樹木がなびいて吹き倒されているようなので長い間見ながら、茫然としていた。試村氏に問うと、海岸から数町離れないと高くそびえる樹木はみられないという。(強い)風雪によるものと想像される。

(奥尻)海峡に面する部分を「内部」(4)とし、約7里強の沿岸となる。その南東の岬を青苗岬と称し、1里離れて室津の小島がある。津軽藩領に属する大島(5)から7里と離れない。東北方向に向かうと、漁師の家が山を背にし、海に向かって1、2里離れて点々として村をつくっている」



東風泊の海岸

神威脇の屏風立岩



四ヶ村時代の行政区

◆用語解説と註◆

(1)	当時の官吏。判任官12等級月給35円
(2)	神威山のこと。島の最高峰
(3)	勝間山のこと。2番目に高い山
(4)	東海岸のことを「内部」と呼んでいた
(5)	渡島大島のこと。現 松前町
(6)	青苗川のこと
(7)	場所請負人の交易の場
(8)	弁天岬のこと。宮津弁天宮が建つ
(9)	道南の五大霊場、太田山権現が建つ
(10)	洋式灯台建設を担う行政機関
(11)	西海岸のこと

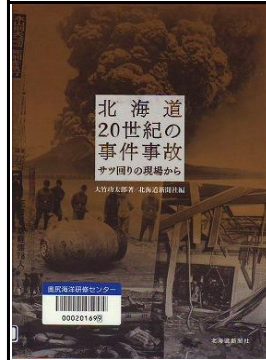
「青苗村、村をへだてる川があり、村名をつけている(6)。これは全島中で一番大きな川である。薬師村、赤石村、釣掛村で一郡四村と呼んでいる。釣掛より北に茶津というところがあり、以前には運上屋(7)があった。3、4年前から熊石や上ノ国から移り住んできた漁夫が4戸ある。茶津の右手に天女岬(8)があり、海門のようになっている。東風を避ける場所である。惜しいことに、狭くて数隻の船しか収容できない。茶津に着く前に東風泊と呼ぶところがあって、岩礁である。ますます陰しくなる。その西北の岬を稲穂岬と名けるが、その形状から名付けた。近くに久遠の太田山(9)があり、呼べばこだまする。遠くに島牧の狩場山に夕日が傾けば、村々が一目で見える。岬を回ると、いわゆる大洋、日本海を望む。波濤が湧いて驚かされ、しかも奇岩、怪石が見られる。内部に比べて、寒さが厳しく風雪を避けられないが故に、上り下りの船の往来を提供し、沈没の害を除かずにいられようか。一般に広く行きわたる利益は計り知れず、この北の島において、急務とするゆえんである。速やかに灯台寮(10)で審議し、官費を設立して島民が篤く保護されることを願う。島の宅地、耕作地の面積や海路の取り調べは数ヶ月のうちに整理すべきだ。四ヶ村の境界と山林の調査は、多くの日数を費やさねば結果が出ない。全島中には沿岸の道路があるだけで、山中には一本の道もない。沿岸の道路は平坦ではなく、急峻な場所や蛇のように曲がりくねり、あるいは崖下の岩礁を渡っていき、隣村と往来している。島民の多くは陸路を嫌がり、海路を行こうとする。外部(11)は大洋に面していて、幌内、北国間のような数隻が停泊できる湾があるものの、途中で藻内、大岩生、小岩生などの急峻な難所があって陸行できない場所が多い」つづく。



幌内の湾



昭和43年頃の奥尻小学校野球部の面々。町内小学校の野球大会で優勝した記念でしょうか。紅白の帽子に分かれていますので、校内の大会だったかもしれません。場所は昭和48年まで使用された旧校舎の前です。後方には相撲用の土俵があり、さらに後方には南谷商店の店舗が見えます。この場所には、昭和48年に新校舎を建設したため、校庭と土俵はなくなってしまいました。



学芸員オススメの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

北海道20世紀の事件事故 大竹功太郎

「サツ回り」という業界用語がある。記者が事件事故報道のために警察に取材する担当記者のことを言うが、特ダネやスクープを打つためには夜打ち、朝駆けもあった。炭鉱事故、洞爺丸台風、恵庭事件、道庁爆破事件、有珠山噴火、北海道南西沖地震などなど。北海道で起きた事件事故のうち、強烈な印象を残した50の記事をピックアップした。

月刊 奥尻のつり 3月号

サクラマスの岸寄りが少ない中、西海岸ではぼつらぼつらと釣果が聞かれています。そんな3月下旬、青苗港内ではちょっとした騒ぎがありました。時たま、港内にヤリカの回遊があり、日によって非常に大きな群れとなってやってきたのです。釣果を聞くとところによると、レット箱(魚介類を入れる木箱)に7~8箱、700ハイも獲った人がいたそうです。たいしたものです。この騒動は長く続かず、1週間ほど姿を消したとのこと。中旬ころより、奥尻の沖合ではホッケの回遊が始まり、船釣りを楽しむ人も出てきました。今年例年よりも群れが大きいようで、港や磯での投げ釣りにおいても、ホッケの大漁(10匹以上)が期待できそうです。気の早い島の学芸員は年度末に釣りに出かけ、さっそくホッケを数本釣り上げて喜んでいました。

昭和奥尻生活詩 新谷清二の鳥賊つけ1ヶ月 第32回

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「島の子」第八号より

降 本兄になか分ても
 っ波は兄なつくももぐ
 てのをな達ってな立ひっ
 い音読んもた、っくし
 たがんだ同。眠てて様よ
 。パでかじく来いなり
 ちい一様なたた気滞
 ヲた機ってら持れた
 、。械寝っ頭機ちた
 つ 聞にてきたボ械だの
 づ え 関いたの。で
 く て す た のッ熱だ、
 雨 る。でとでが風
 長 横 暖十邪

待し渡のも九も島すが○ら
 でよつ取あ州倍内と、の二
 すうてりっ地増六、受と入九
 。かき組た方し名道検な学
 。たみよかてと内生つが度
 今こがうらいな外た可り
 の全でのまりか数奥能
 の国、入す。昨十だけ高
 発現に奥学。昨十だけ高
 展れ知尻希遠年七を校員
 にでれ高望くよ名見で二
 期 校者はり、ますか

島留学生最多の見通し



See You Again!

まり僚奥なあが一史身しテシ
 しに、尻つり、年がのてイス昨
 た集友空た、本間本ジい|タ年
 。ま人港の緊国の国リたチン八
 りらにで急で勤へア米ヤト月
 、がはず帰の務帰ン国|より
 別た、。国職の国・ア(ラ)A
 れく生帰す場予しリラとンゲ
 をさ徒国のの定まッスしチカ
 惜ん、のこ事でしチカて|T
 し見同日と情した|州赴ジへ
 み送、にがた。女出任・ア

シリアン帰国に涙

り、でいてのなか三いまてた。
 し、ういでいと三返す丸。先
 しよ間くすと考歳す。七二日、
 か。うにう。正えの時、いなる
 短人わにうにも、何えのろ奥
 い生つ人し思、日ばでう尻に
 場はて生てい日出記し三す
 合一しは日あ々せで一ね。し
 も度まあつ過なもい歳。て任
 きうつ過なもい歳。て任
 のとしい見たと思しし

新卒之記録(編集後記)

まで夕は決の使との館年史横
 す。、稲定老用し震と開民青
 。引へ穂と朽し、災な館俗に苗
 き移ふな化て文以り(資)あり
 続転れりのき化降、しす館ま
 きしあまたま財、しす館ま
 管ていしめし収一た。が、昭
 理あ研た、た蔵般、昭た和
 しり修。こが庫へ平こ和奥
 てまセ収の、とは成の五尻
 いすん蔵度建し休五度十町ム
 きの物の物て館年廃九歴

歴史民俗資料館廃館



今月の奥尻のお宝

離島航路トランプ